

『NEW TREASURE 研究会 大阪会場』実施レポート

日時	平成 27 年 10 月 12 日 (月) 13:00-18:00		
場所	C I V I 研修センター新大阪東 7 階 E705		
時間	内容	講演者	所属・役職など
13:00 13:05	開会の挨拶	宇都宮課長補佐	Z 会営業部
13:05 14:05	<b>【第一部】</b> 英語教育改革に向けた研究・改善の要諦	久保 敦	立命館宇治中学校・高等学校 国際教育センター長
14:05 14:20	<b>【Z 会からのお知らせ】</b> NT3 改訂についての案内	二宮 瑛子	Z 会 編集担当
14:20 15:20	<b>【第二部】</b> Fostering Four Skills in Daily Lessons	Ross Tulloch	岡山学芸館清秀 教諭
15:50 16:50	<b>【第三部】</b> ICT を活用した英語授業・発話指導の 実践事例	中村 良平	ノートルダム女学院中学高等学校 教諭
17:05 17:20	<b>【Z 会からのお知らせ】</b> StudyLinkZ などの ICT ソリューション	内田 康夫	Z 会 教務・進路担当

**【講演要旨と質疑応答】**

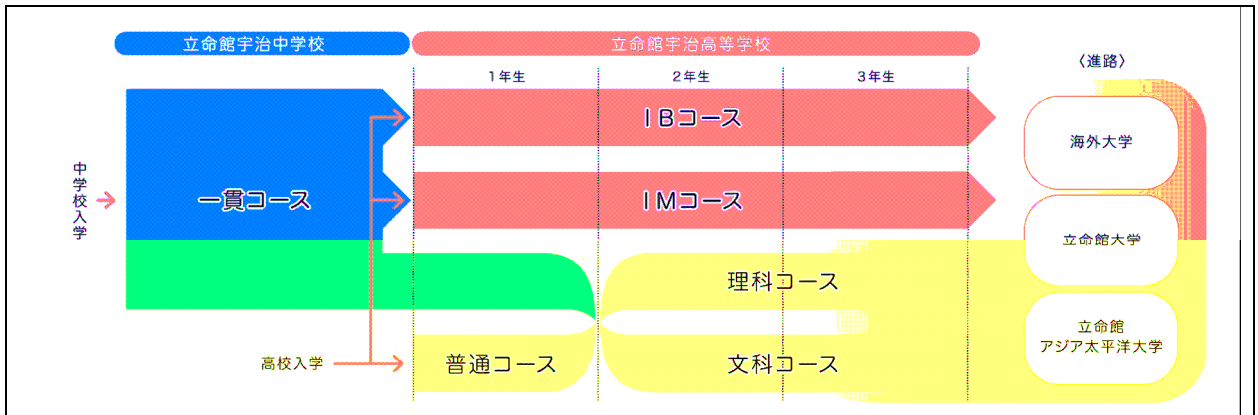
**【第一部】 英語教育改革に向けた研究・改善の要諦**

立命館宇治中学校・高等学校 国際教育センター長 久保 敦先生

- ・ 経歴：今まで千葉，ニュージーランド，東京，京都と勤務してきた経歴があり，それらの学校の多くが，英語教育に力を入れているところだった。E S N 総合代表。
- ・ 本日は文部科学省による提言に対する現勤務校の取り組みを以下の 1～7 に沿って紹介する。

1 立命館宇治中高の紹介

- ・ 日英バイリンガル校で，関西初の IB 認定を受けた学校。SGH のモデル校。
- ・ 学校長はアメリカ人であり，校内会議では英語で訳さなくてはならない。
- ・ 30 名以上のネイティブが勤務。
- ・ コースは以下のとおり。理科コース・文科コース（理科の中にも文系がいる）がある。



久保先生発表資料より抜粋

- ・ Immersion コースは1年間留学（帰国後は英語で授業を受け、大学へ進学する）。

## 2 文部科学省：教育課程特別部会資料について

### 文科省の資料 2-2



久保先生発表資料より抜粋

- ・ 文科省より、「小学校英語に力を入れよ」との指示あり。国公立の英語レベルの現状は CEFR の A1, A2 (英検 3 級～準 2 級) だが, B1, B2 まで上げてほしいとの提言。

- ・ 本校の小学校英語の紹介：

- ・ Rits Kids：近隣の小学生を集めて指導。120～130 人程度の Rits Kids という講座を開いている（1日中、科目としての英語をやるクラス）。

－1 クラス 4 名の先生がつく（1名は立命館宇治の生徒）。

－アカデミックな内容まで踏み込む。

(例) アリストテレスについて発表 (小1)

－他県からも参加しており、応募数は増えている現状。

- ・指標上も上げる余地の大きいのが‘話す力’‘書く力’だが、資金と環境がなければ充実した指導ができない。これらの力を伸ばすための本校での取り組みは以下のとおり。
- ・本校では昨年から『NEW TREASURE STAGE1』の使用が始まった (複数使っていた教科書を NT に 1 本化)。
- ・週 2 時間 TT (話すこと) を組み込んでおり、生徒は人前でスピーチをすることをいとわなくなった。
- ・文法も読解もこなす量がたくさんあるので ICT を活用するようになった。

－ホームページの活用

－生徒に配布したプリントがダウンロードできるようになっている (欠席者や保護者も履歴を見られるようになっている)。

－Critical Thinking 教材もたくさん入っている。

－教材はアニメーション+音声つきのものを導入している。

－ボイススレッド (一人ひとりの音声を入れることができる) の活用 : 英語がきれいな生徒でも喜んで音声を入れる。わざわざ授業中に一人ひとりの発音を確認する必要がないという利点。

－その他、ティーチャーズキットやグレードブックも活用している。

- ・フィリピンの Skype の授業が取り入れられないか検討している (25 分 1 対 1 で話すことができるシステム)。

－安価で活用できる。

－ネイティブの先生がいない学校でも話す練習ができる。

－こうしたシステムの利用により、NEW TREASURE の学習のバックアップができるのではないか。

- ・Skype を利用したスピーキング評価を提案したい (年間を通したコース設定→コース終了後の試験→資格書の付与のような流れを想定)。

- ・1 ヶ月 15 万円でフィリピン留学できる (セブ島)。NHK でも報道された。

- ・ライティングに特化した教材を作れないか検討している。資料 3 レベルの英文※ のチェックを学校の先生が実施するのは大変なので、英文チェックをフィリピンに外注しようとしている (中高生のライティング・スピーキングの評価を外部がするという形を模索している)。

- ・英語ディベート大会 (NFLj) に出場 (2 位と 3 位は本校生徒→1 位, 2 位はアメリカに行く)。

- ・英語のプレゼンコンテストを行なってはどうかと検討している。

※ Generally, most high school students in Japan do not have future dreams nor do they have any idea of the occupation that they would like to pursue in the future. Well, I am a high school student and sooner or later I will be expected to choose the path to my career. But how would I choose my career path? (以下省略, 合計 500 語程度)

### 3 文部科学省：教育再生実行会議資料について

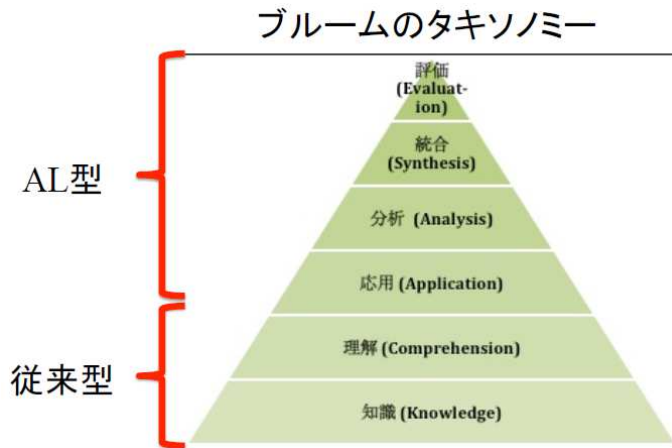
**第七次提言 これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について** (平成27年5月14日)

- ・これからの時代を見据えた教育内容・方法の革新 (アクティブ・ラーニングの推進、ICT活用等)
- ・教師に優れた人材が集まる改革 (育成指標の明確化、全国的な育成支援拠点の整備等)

- ・次期学習指導要領に関する中教審での審議 (平成26年11月20日諮問) の中で、教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方等について審議。
- ・有識者会議 (平成27年5月12日第1回開催) にて、いわゆる「**デジタル教科書**」の位置付けや関連する教科書制度の在り方について検討。
- ・**教職員やチームとしての学校の在り方**に関する中教審での審議 (平成26年7月29日諮問) の中で、育成指標の明確化等について審議。

久保先生発表資料より抜粋

- ・アクティブラーニングの推進が掲げられている。
- ・アクティブラーニングをさせないと応用の段階まで到達できない (参照：ブルームのタキソノミー)。

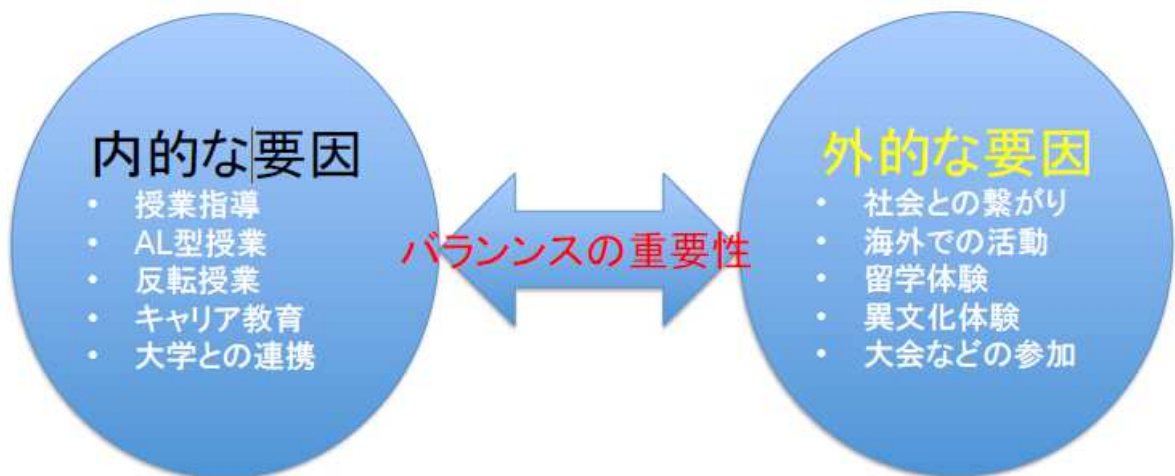


久保先生発表資料より抜粋

- ・2016年8月にアクティブラーニングフォーラムを開催予定。

### 4 内的要因と外的要因のバランスについて

- ・これからはアウトプットを重視し、企業や大学とも連携している。



久保先生発表資料より抜粋

#### ▼本校での取り組み（内的な要因）

- ・本校では、高校に入ると、すべて洋書の教科書（日本人教員もネイティブ教員もどちらも使える）になる。
- ・理科コースの様子（※研究会では実際に取り組みの様子の動画を視聴）。
- ・英語の能力と理科の知識が必要。
- ・他者に説明したり，グループで発表したりする。

#### ▼本校での取り組み（外的な要因）

- ・校外でのさまざまなプログラムを用意している（せっかく校内でたくさん学習したのだから，外でどんどん恥をかいてきてほしいという方針）。
- ・海外トップ校との交流。
- ・海外の国際会議や討論会への派遣。
- ・英語圏ではない国にもどんどん派遣。年間 50 人弱派遣している。
- ・ギャップイヤーを活用したプログラムも用意している（今年は 30 名派遣予定）。
- ・Immersion コース以外の子でも一部参加する。

#### 5 『NEW TREASURE』への提言

- ・『NEW TREASURE』と CEFR の指標との分析結果がほしい。
- ・Critical Thinking と Writing の教材をさらに充実させてほしい。
- ・e-learning 教材を充実してほしい。
- ・ICT を活用できる動画教材がほしい。
- ・英文添削サービスがほしい。
- ・小学校 5, 6 年生用の『NEW TREASURE』がほしい。
- ・校内でアクティブラーニングが展開できるような題材を入れてほしい（特に STAGE4・5）。

#### 6 新しい教材（TOK）の紹介

- ・Theory of Knowledge の日本語版を作成中（2016 年 1 月発刊予定）。
- ・アクティブラーニングと教科連携を実践できる教材である。

#### 7 ESN 研究会の紹介

- ・ESN（英語教育総合研究会）にぜひご参加ください。

<http://es-network.org>

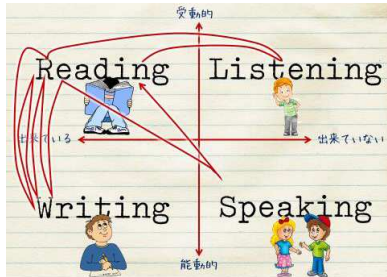
#### 【第二部】 Fostering Four Skills in Daily Lessons

岡山学芸館清秀 教諭 Ross Tulloch 先生

〈本校についての現状〉

- ・6 年前に中学校ができたので，今年が初の大学受験を迎える年。
- ・1 学年 35 人程度の小規模な学校。タロック先生は 5 学年担当。6 学年担当する先生もいる。
- ・成績：中学 2 年生の模試のデータを見ると，英語の成績は他科目に比べて偏差値が伸びている（入学前，10 人中 9 人は英語の塾に行っていなかった）。

- ・入学当時担当していた生徒たちが、しばらく担当を離れたら（6ヶ月ぶりに）、手を上げたり積極的に発言したりする習慣がなくなっていたことがショックだった。
- ・4技能：リスニングとスピーキングが不足していると感じている（リーディングとライティングに偏ってしまっている）。下記は日本の英語教育の現状。4技能がサイクルで結びつくのがコミュニケーションの勉強なのに。



タロック先生発表資料より抜粋

- ・3つのPを意識した授業を行なっている。
  - ・Presentation（新しい文法や単語を説明する）
  - ・Practice（問題集の問題を解く）
  - ・Production（習った文法や単語を実際に使う）→現状はココが不足している。

#### 〈英語A（いわゆる‘教科’としてのテストに直結する授業）での取り組み〉

- ・ライティングについては、「書かせる」からといって、文法問題がライティングと呼べるかどうかには疑問を感じている。⇒問題を解く際には「考えさせながら」取り組ませている（例教科書に‘つっこみ’を入れているなど）。
- ・英語Aでコミュニケーションの要素を入れるならば、うまく取り入れる必要がある（楽しいだけではだめで、入試の得点力も養う必要がある）。
- ・チーム制にし、手を上げたらチームに点を与えるようなシステムにしている。
- ・授業で提示しているパワーポイントのスライドは、生徒が何か反応を示すまでは進めないようにしている（スライド上にあるマークが登場する。一番に指摘すると点を与えるという仕掛けも用意している）。
- ・コミュニケーションアクティビティズ（3つのPのうちのProductionとして）を取り入れている
- ・必要なのは以下の3要素
  1. Make use of four skills（4技能を使うこと）
  2. Measurable benefit（測定可能な助け）
  3. Are fun（楽しいこと）
- ・アクティビティの具体例
- ・SVO UNO（SVO UNO）

〈ルール〉 いろいろなSVOを示すマークが書いてあるカードを用いて、UNOと同じ要領で、出ているカードに共通するSVOを含むカードを"He knows them."などと言いながらすばやく出していくゲーム。中学生はUNOのルールにも慣れているので、ものすごいスピードでカードを出していく。3単現のsを無意識に言えるようになってほしいという狙いがある。





タロック先生発表資料より抜粋

### ・ PP BINGO (現在完了ビンゴ)

〈ルール〉 現在完了の文で使われる表現のマス (‘have been to’ や ‘have already’ など) でできたビンゴカードを用いる。トピックカードを引き、そのトピックにつき自由に現在完了の文を作成。その読まれた文で使われている表現のマスを消していくゲーム。トピックカードのトピックを、学校や地域のローカルネタにすると盛り上がる。ゲーム中に、‘I’ve never been to Tokyo.’ ‘Oh, really?’ などの自然発生的なコミュニケーションも生まれておもしろい。



タロック先生発表資料より抜粋

・ ‘楽しいゲーム’ で終わるのはもったいない。

→ ‘楽しいゲーム’ で終わらせないための工夫をしている。

- ・ 自分がゲーム中に言ったことは家に帰ってから改めて書き出す宿題がある。
- ・ 次回授業で宿題の振り返りを行ない、ミスをみんなで直す (ここでも、他チームに先にミスを指摘されると点がとられてしまうので、みんな必死に臨んでいる)。

### 【第三部】 ICT を活用した英語授業・発話指導の実践事例

ノートルダム女学院中学高等学校 教諭 中村 良平 先生

- ・ 経歴：京都出身。文法に興味があり京都大学文学部 (言語学専攻) ではアイスランド語を専攻していた。SE 職を経て、教職 (情報科も教えることもある) の現在に至る。
- ・ ノートルダム女学院中学・高等学校について
  - ・ 1952 年創立
  - ・ 京都市左京区
  - ・ カトリックミッションスクールの女子校
  - ・ 生徒数 631 名 (1 学年 100 名程度)
  - ・ A 類型 (標準) ・ B 類型 (特進) の 2 類型
- ・ 本校のデジタル環境は以下のとおり。

- ・2008年 LL教室をCALL化
- ・2012年 全普通教室に電子黒板を設置
- ・2014年 校内Wi-Fi化・iPad導入
- ・ICT, アクティブラーニング, グローバル (最近の教育業界のバズワード) と名の付く部門のリーダーやメンバーになっている。
- ・本日はICTを使った授業実践事例をいくつか紹介したい。

## 1 『NEW TREASURE』とICTを使った授業

- ・中学生でのみ『NEW TREASURE』を採用している。
- ・中学1年生でデジタル教科書 (『NEW TREASURE』 Laboratory に投稿された NT Digital テキストブックのこと) の利用スタート。
- ・2012年から電子黒板を使っているが, 以下の利点があり, 授業の流れがよくなった。
  - ・生徒の視線があがる。
  - ・先生が板書をしている間の, 生徒の待ち時間を減らせる。
  - ・「今どこ?」の生徒が減る。
- ・デジタル教科書は, パワーポイントとスキャナがあれば簡単に作成することができる (PDFのスナップ・ショット機能を活用して実演)。
- ・音は埋め込まずに, iPodを接続して別立てにしている。



中村先生発表資料より抜粋

- ・Grammar の授業例 (中学3年生)
  - ・予習は禁止
  - ・Dialog Listening > Dictation > Translation
  - ・Key Points Translation > Recitation > Application の順で進めている。
  - ・Listening: プリントで与えられた問い (例) Can Kevin continue to sleep? を確認する音声はスピードを変えるアプリで速度を速めている。  
定点でマークをつけておけるので (しおり機能), 同じ部分を何度も聞くことができる。
  - ・Key Points: 英文を見ながら英文を読ませる→スライドの日本語を見ながら英文を読ませる (手元の教科書も見てよい) →スライドの日本語だけ見て英文を読ませる (列ごとにあてる) →英文を暗誦させる (授業では暗誦すべき英文を生徒ごとに指定する)。
  - ・Application: 本文とは単語を変えるなどして理解を確認する。
- ・Read の授業例
  - ・プリントにそって予習させている (和訳)。
  - ・授業では, 内容確認・解説・下線部暗誦・暗写を行う。



- ・英文の要約を口頭・英語で発表させる。
- ・映像を見せたりもする（ハーメルンの笛吹き男の映像）。
- ・スピーキングは生徒同士で必ず iPad で撮影（最近は生徒に撮影させているが、おもしろがってやってくれている）。
- ・文法問題集，**WORKBOOK** の利用について
  - ・文法の説明はみんな寝るため，家庭学習でやらせるようにした（小テストで確認→補講）。
  - ・文法問題集，**WORKBOOK** はスナップ・ショットでパワーポイントに貼って作成している。
  - ・2年間（中2・3）担当したところ，「ついていけない」という生徒が 0 パーセントだったのがよかった。
- ・2014 年からは NT Digital テキストブックを利用開始。
  - ・板書をしなくてすむし，音読も楽しそうにしてくれた（顔が上にあがるので声が出る（苦手なクラスは今まで声が出ていなかったが，声が出るようになった））。
  - ・NT Digital テキストブックには以下の利点がある。
    - ・とても見やすい。
    - ・授業準備が大いに軽減。
    - ・音声がすぐに再現できる。
  - ・以下の点がクリアできるとなると便利になる。
    - ・「コミュニケーション」の要素がない。
    - ・修正が加えられない。
    - ・音声のスピードが遅い。
    - ・文法問題集，**WORKBOOK** のデジタル版がほしい。
- ・パワーポイントのフラッシュカードを作成し活用している（並び替えもできる）。
 

⇒結果，過去形を‘書けないけれど言える’という生徒は増えた。
- ・Excel を使って，成績表や提出物を‘見える化’した（担任にも本人にも保護者にも）。

## 2 Skype を使って英語授業

- ・週 1 時間，Skype・マンツーマン英語授業を行っている（高校 2 年生全員（1 年生は一部））。
- ・CALL 教室での様子（研究会では実際の様子の動画を視聴）
  - ・フィリピン人講師との Skype。：なぜフィリピンか。以下のことが考えられる。
 

⇒高い英語力／温かい国民性／価格が手ごろ／学習者視点での授業が受けられる。

フィリピンの社会から学べること（貧富の差）／フィリピンとのつながり
  - ・マンツーマンなのでしゃべらざるをえない。
  - ・苦手な子でも絶対に話す。
  - ・英語が通じる喜びは大きなモチベーションになる。
  - ・音量不足に対する気づきが与えられる。
  - ・クイックレスポンスの重要性。

- ・正しい英語を身につける重要性。
- ・ Adaptive Learning への一歩。
- ・ Skype オンライン英会話の弱み
  - ・ 機器のトラブル。
  - ・ 講師の質にばらつきがある。
- ・ セブ島（フィリピン）英語集中強化プログラムという長期休暇学習プログラムを実施しており、肌で感じながら考えることを重視している。
- ・ これからの課題
  - ・ オフラインの授業との連携。
  - ・ Adaptive Learning へのさらなる進化。
- ・ 「アクティブラーニング入門編」という本との出会いにより、夏期講習で以下を実践した。
  - 25分 長文読解演習
  - 35分 peer teaching/learning
  - 10分 振り返り
- ・ 心がけていること
  - 1 便利・有効だから ICT を使う。
  - 2 あまり手間のかかることはしない「心をこめて手抜きをする」（例 ホテルのスクランブルエッグは簡易な調理法をとっている）。
  - 3 動作不良時には ICT を見捨てる。
  - 4 操作時は生徒にタスクを与える。
  - 5 簡単に「失敗」にしない（あとちょっとの微調整でうまくいくかもしれない）。

#### 質疑応答

- Q フィリピンについての契約状況はどうなっているのか。
- A 1年契約。費用は生徒負担にしている（週1回の授業[takemura1]）。苦労したのはサポートとして授業に入っていたこと。
- Q Skype のときの話題はどのように決めているのか。
- A Skype の話題はテキストがベースにはあるが、別の話題で盛り上がることもある。こちらの教材と本当は連携したいところ。
- Q Skype の経営側（フィリピン側）と話し合いの場はもっているのか。
- A オペレーターとホットラインがある。担当者（日本人）と話し合いはできるようにはなっている。
- Q 結果に結びついているか。
- A 今は提示できるものがないが、GTEC for Students を利用しているので、その結果などでうまく見せられればよいと思っている。

【所感】

- アクティブラーニング，スピーキング，ICT というワードはますます『NEW TREASURE』採用校の先生方の中でも課題となっています。東京・大阪の研究会を通して，各講演者の先生方からは，その課題に対するソリューションをすぐに授業の中や学校の取り組みとして実行していくエネルギーを感じました。とくに留学を含む国際コースを持っている学校では次々と独自の取り組みを導入して，アウトプットの授業に力を入れていることがうかがえました。ICT への移行には校内のシステム面での整備はもちろんのこと，企業・大学との連携という点が，アカデミックな質を維持・向上させるためには大きいと感じました。また，そうした大きな流れと並行しながら各授業の中でも『NEW TREASURE』を用いながら生徒の学習を効率化する仕掛けや教材，授業メソッドを編み出されていて，たいへん参考になりました。StudyLinkz（2016 年春リリース予定のZ会教育プラットフォーム）の機能はこうした新しい取り組み・ご要望にも沿うものなのでリリースにご期待いただきたいと思います。
- 東京と同様，現場で生徒さんと向き合う先生だからこそその具体的で工夫あふれる活用事例を多数ご提示いただくことができました。Skype 英会話やパワーポイント，各種アプリなど，必要なものを柔軟に取り入れ，試行錯誤されている様子うかがえました。変化の大きいこれからの社会に向け，目指したい姿（生徒につけさせたい力）としては先生方・Z会で重なる部分が大きいと思いますので，先生方と直接お話ししながら，教材や指導法を創っていけるとよいと思います。

以上